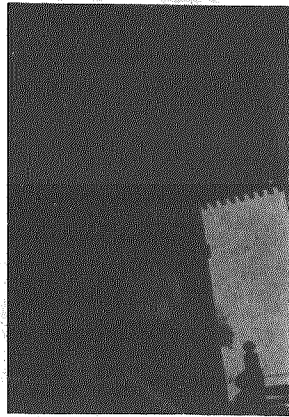


毛綱で引揚げた大樑

小杉八幡宮の偏額にも使用

—長瀬正稔さん由来調査—



「論場の大樑」由来を語る長瀬さん

京都東本願寺大師堂の矢来差(長さ一三・五尺、幅一・二尺、厚さ〇・六尺)が、今から百年前の明治十六年、小杉地内の阿賀野川の川底から人間の毛綱で引揚げ、献上した大樑であることは、横越村誌で紹介されています。長瀬正稔さん(六十二歳・小杉)は、この由来をもっと詳しく調べてみようと思いつち昭和五十六年、役場職員を退職したあと本格的に調査をはじめ、このほど、本紙にそ

▽日記や手紙を書こう

脳細胞を活発に働かせるうえで、読書よりもさらに効果的なのが、文章を書くことです。▽創造的な趣味を持つと

趣味は、人生に安らぎと豊かさをもたらします。趣味を持つことによる「心の張り」

予防は知的刺激から

求め続ける態度が脳の若さを保つことにつながるのです。そのための方法をいくつか挙げてみましょう。

▽どんどん本を読もう

テレビなどに比べて、新聞や雑誌、小説などの活字文化は、より想像力を高め、知的好奇心を刺激します。

気持ちはいつまでも若く

知的・精神的刺激を求め、健康を保つうえで重要な役割を果たすからです。

▽無用の長物「扱い

ど人を老け込ませるものはありません。若い人が苦手なことを率先してやりま

の内容を寄稿されました。

論場の大樑と毛綱の由来は古老からの言い伝えでしかなかったのですが、長瀬さんの調査によって、「木揚場説教場設立の由来」の書物と、小杉八幡宮の偏額の裏に事の次第が記録されていることがわかりました。

このことは、昭和五十三年新潟市の西山光一さんが八幡宮の偏額を調査に来た時に始めて聞かされ、神主の遠藤文男さんもびっくり、さっそく偏額を取りはずして確認されたという。

「木揚場説教場設立の由来

「は、論場の大樑の引揚げ作業にあたった新潟市の回船問屋坂井若利氏が記録されたものを坂井氏を慕う人たちが昭和二十九年に発行したらしい。紙面の都合で詳しく由来を紹介することはできませんが川底に埋れている大樑の引揚げ作業には、坂井氏が指揮にあたり近郷近在の百二十カ村の信仰心の厚い男女の髪毛を集め、毛綱を編み(一八房長さ一・二六尺〜三・一尺、周囲三六寸〜一八寸)一年半の大作業で長さ二八尺、周囲九尺の大樑を掘起す」とあります。また、小杉八幡宮の偏額も坂井氏の自筆で、大師堂再建に献木した大樑を引割って額にした旨のことが書れています。

9月保健衛生業務予定

日	曜	時間	内容	対象者	会場	対象
14	水	午後1.30~	乳児検診	57年9月 58年2月、6月生れ	横越村 公民館	全村
20	火	午前9.30 ~12.00	離乳食講習会	58年4月、5月生れ	◇	◇
22	木	午後1.30~	3才児検診	55年2月、3月生れ	◇	◇

◆主な行事予定◆

- 9/ 5 定例農業委員会  
横越小学校夏休み作品展(〜10日)
- 6 定例民生委員協議会  
新婚学級  
横越小校内水泳大会(〜7日)
- 8 横越小夏休み発表会(〜10日)
- 9 中学校郡市少年の主張大会(新津市)
- 12 教育委員会
- 13 婦人大学
- 15 敬老会(村内五会場)  
職域対抗野球大会(亀田、横越18日)
- 18 中学校運動会  
沢海保育園運動会
- 19 高令者大学
- 20 定例議会  
横越小遠足
- 23 中央保育園運動会
- 25 小杉児童館運動会